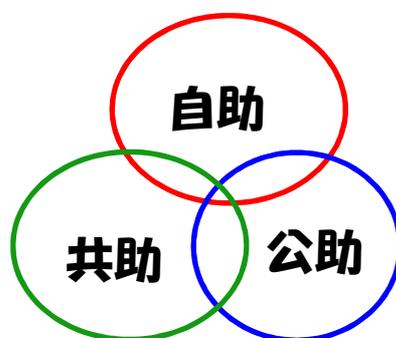


安城市校區別地震防災カルテ

学区：安城北部小学校区



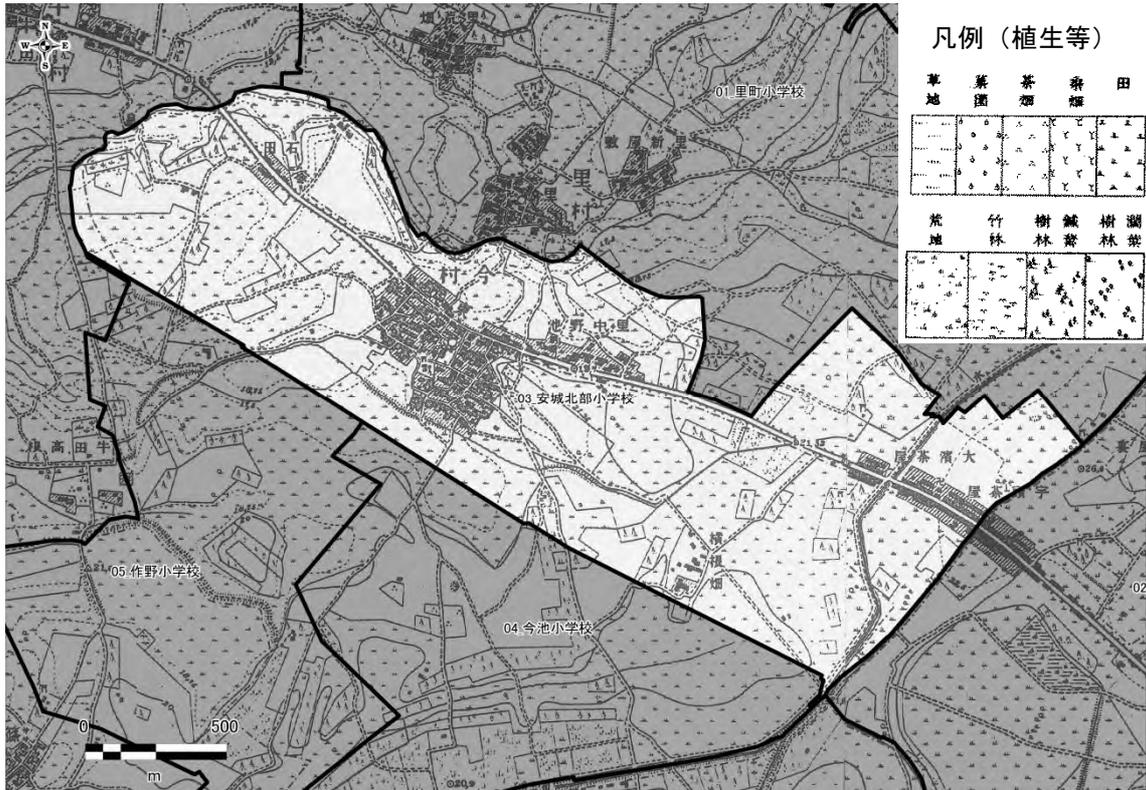
自分たちが住んでいる地区の状況や被害想定、防災施設を把握し、地震に強いまちづくりを進めていきましょう。

安城市

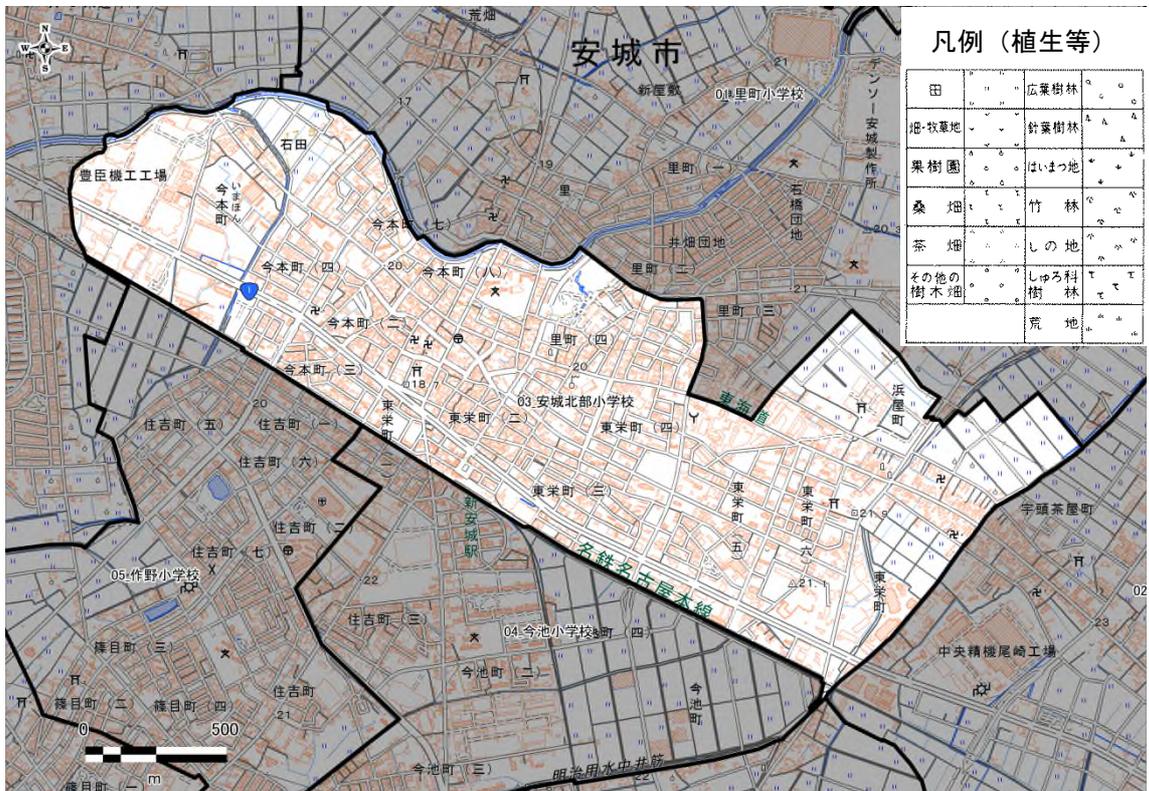
目 次

安城北部小学校区のむかしと今	1
1. 校区の位置図	2
2. 校区の構成	2
3. 校区の概要	2
4. 被害予測の結果（過去地震最大モデル）	4
5. 被害予測の結果（理論上最大想定モデル）	6
6. 防災関連施設	8
7. 避難所等一覧	9
8. 防災上の課題	10
9. 防災関連施設分布図	11

安城北部小学校区のおかしと今

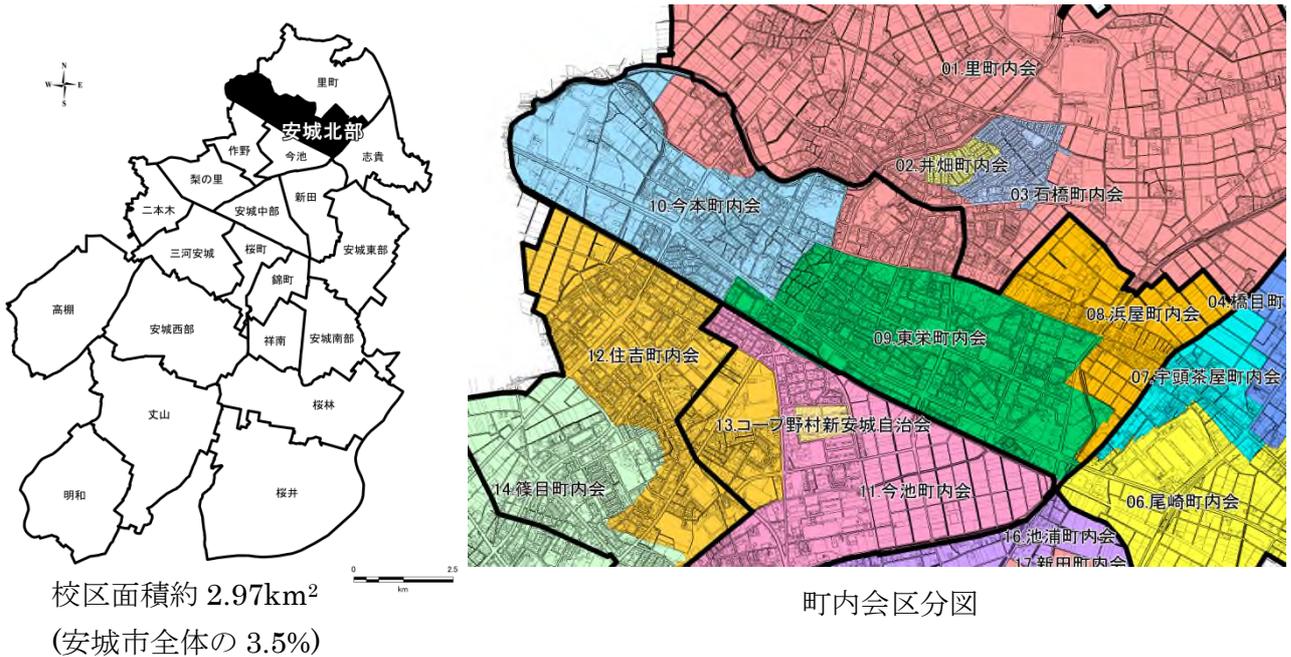


おかし（1890年（明治23年）ごろ）の校区付近の地形



今の校区付近の地形

1. 校区の位置図



2. 校区の構成

浜屋町、東栄町、今本町、里町〔4丁目・北大道寺・大道寺〕

3. 校区の概要

【位置】安城北部小学校区は、市の北部に位置する。

校区の西側は知立市との市境となっている。

【地形】校区の大部分は台地上に位置するが、里町校区との境界には猿渡川、校区西部には石田川が流れており、沿川は低平地となっている。

【土地利用】校区大半が住宅であり、人口が一番多い校区である。

北西部には広い工業用地がある。

【交通】国道1号が南東方向に通っており、南西方向に通っている県道豊田一色線（12号線）や県道豊田安城線（76号線）と交差している。

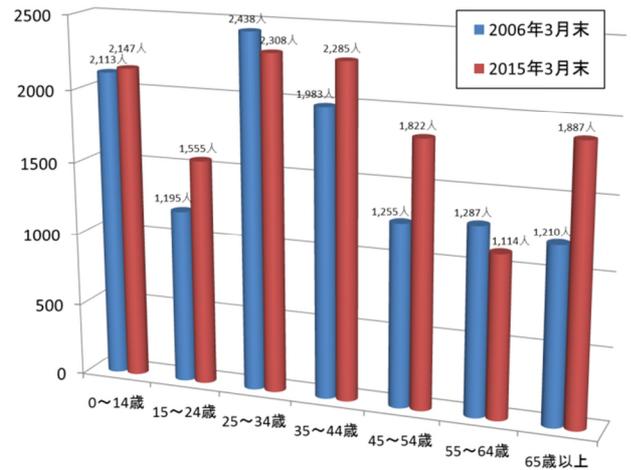
今池小学校区との境界には名鉄新安城駅がある。

【その他】町内会は、浜屋町内会、東栄町内会、今本町内会、里町内会

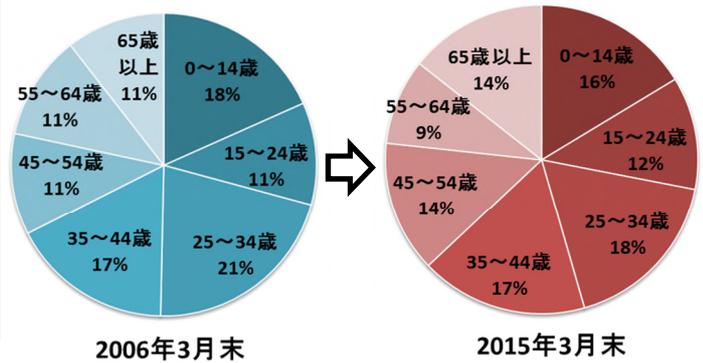
【人口等】(2006年3月末時と2015年3月末時の比較)

人口は増加している。ただし、65歳以上の高齢人口比率も増えている。

2006年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	2,113人	18%
15～24歳	1,195人	11%
25～34歳	2,438人	21%
35～44歳	1,983人	17%
45～54歳	1,255人	11%
55～64歳	1,287人	11%
65歳以上	1,210人	11%
人口(合計)	11,481人	100%
人口密度	3,866人/km ² (全市 2,013人/km ²)	
世帯数	4,498世帯 (対全市 7.4%)	

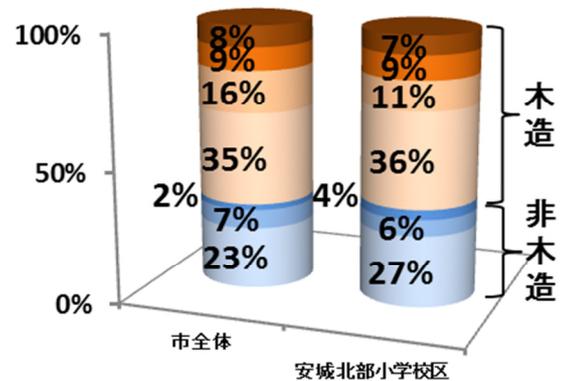


2015年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	2,147人	16%
15～24歳	1,555人	12%
25～34歳	2,308人	18%
35～44歳	2,285人	17%
45～54歳	1,822人	14%
55～64歳	1,114人	9%
65歳以上	1,887人	14%
人口(合計)	13,118人	100%
人口密度	4,417人/km ² (全市 2,151人/km ²)	
世帯数	5,278世帯 (対全市 7.6%)	



【建物棟数】(2011年12月)

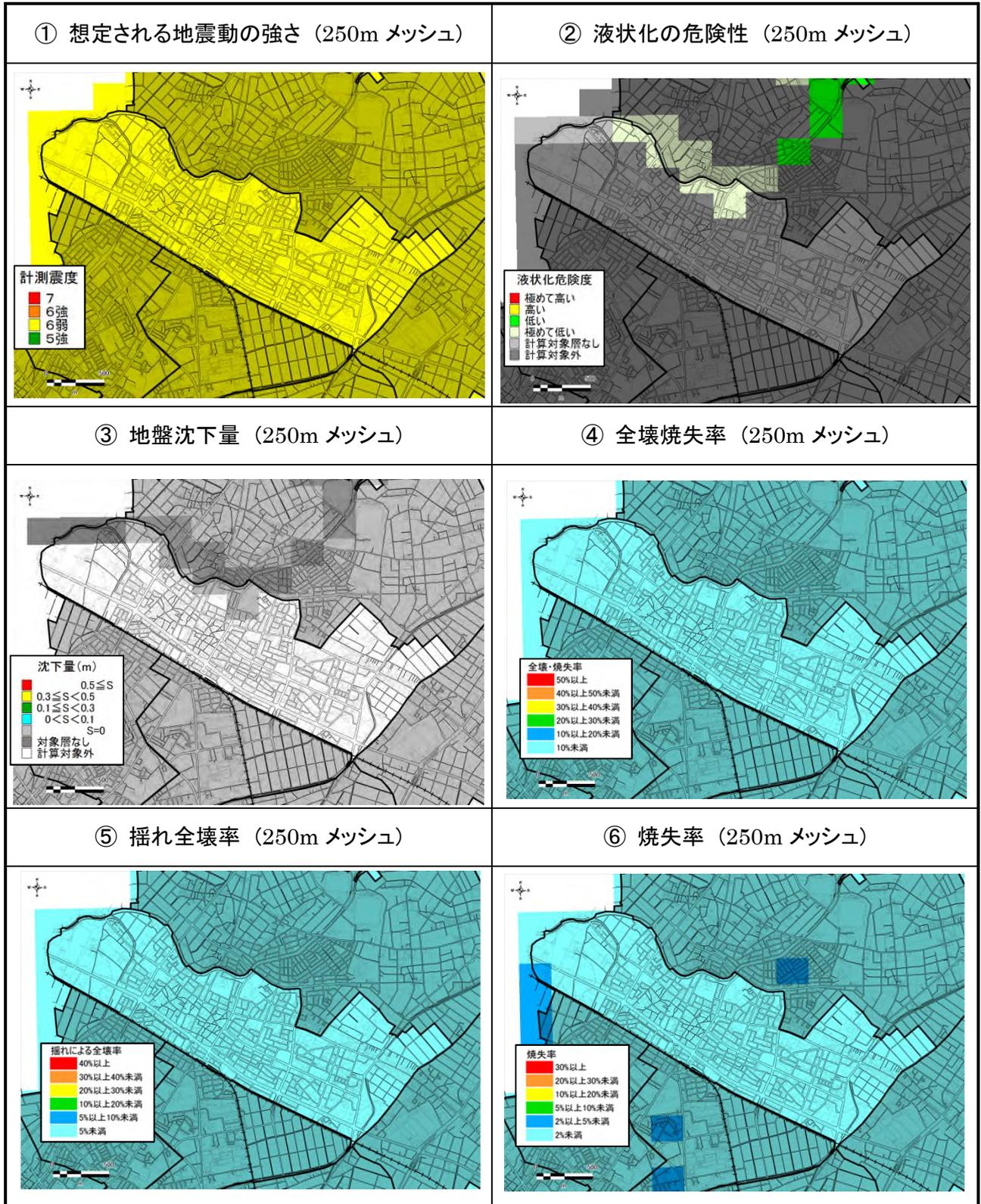
		建物棟数(2011年12月)	校区内での比率
木造	昭和36年以前	249棟	7%
	昭和37～46年	288棟	9%
	昭和47～56年	400棟	11%
	昭和57年以後	1,304棟	36%
非木造	昭和46年以前	134棟	4%
	昭和47～56年	224棟	6%
	昭和57年以後	982棟	27%
建物棟数(合計)		3,581棟	100%
1km ² 当たりの建物棟数(校区/全市)		校区: 1,206 / 全市: 699(棟/km ²)	



4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

過去地震最大モデルとは：

- ・南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで大きいもの（1707年「宝永地震」(M8.6)、1854年「安政東海地震」(M8.4)、1854年「安政南海地震」(M8.4)、1944年「昭和東南海地震」(M7.9)、1946年「昭和南海地震」(M8.0))を重ね合わせたモデル。
- ・本市の地震対策を検討する上で重要な想定とした。



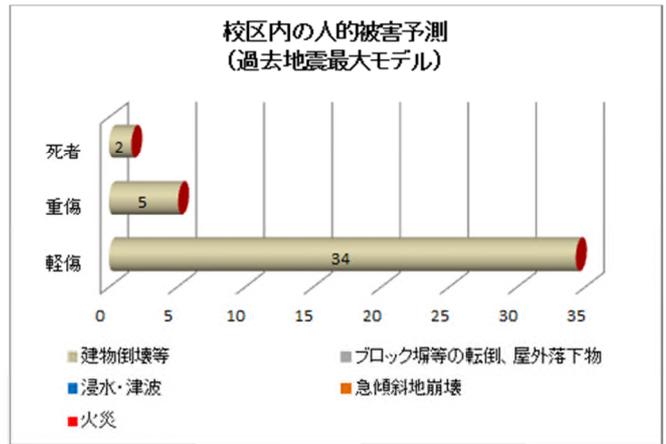
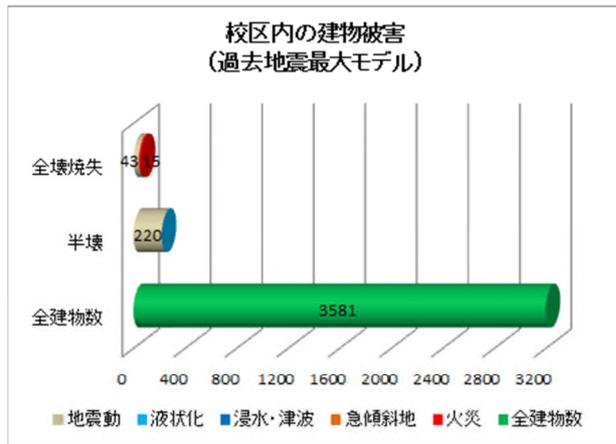
4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

安城北部小学校校区は、震度 6 弱の揺れが想定されている。震度 6 弱は立っていることが困難になるほどの揺れであり、建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。液状化に関しては、猿渡川沿川の低平地で液状化が発生する可能性があるとして想定している。名鉄新安城駅周辺では、帰宅困難者が最大で約 3,800 人程度となる可能性があり、一時滞在施設の確保を検討する必要がある。

<建物・人的被害の予測>

建物被害【冬・夕方発災】 ※()内は、校区の建物棟数3,581棟に対する割合			人的被害【冬・深夜発災】 ※()内は、校区の深夜人口12,528人に対する割合			
単位:(棟)			単位:(人)			
	全壊・焼失	半壊		死者数	重傷者数	軽傷者数
地震動	43	220	建物倒壊等 (うち屋内転倒物・ 屋内落下物)	2	5	34
液状化	*	*	ブロック塀等の転倒、 屋外落下物	*	(1)	(5)
浸水・津波	0	0	浸水・津波	0	0	0
急傾斜地	0	0	急傾斜地崩壊	0	0	0
火災	15	—	火災	*	*	*
建物被害総数	58(1.6%)	220(6.2%)	被害者数合計	2(0.01%)	5(0.04%)	34(0.27%)

*: わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

<ライフライン被害の予測>

ライフライン	被害	95%復旧するのに
上水道	被災直後、約9割が断水	約6週間
下水道	被災1日後、約7割が利用困難	約3週間
電力	被災直後、約9割が停電	約1週間
通信【固定電話】	被災直後、約9割が通話支障	約1週間
通信【携帯電話】	被災1日後、基地局の電波が停止する確率が、最大約8割	約1週間(基地局の復旧)
都市ガス	被災直後、0.3割が供給停止	約2週間
LPガス	被災直後、約1割が機能支障	約1週間

<避難者数の予測>

	1日後			1週間後			1ヶ月後		
	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外
安城北部小学校校区	365	219	146	1,699	849	849	365	109	255
市計	8,271	4,976	3,295	26,649	13,359	13,289	8,142	2,442	5,699

※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

理論上最大想定モデルとは：

- ・南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、千年に一度、あるいはそれよりもっと発生頻度が低い地震。発生頻度は極めて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震。
- ・「命を守る」という観点で想定外をなくすことを念頭に地震対策を講じることが不可欠であることから、あらゆる可能性を考慮して想定した最大クラスの地震・津波モデルとして設定。

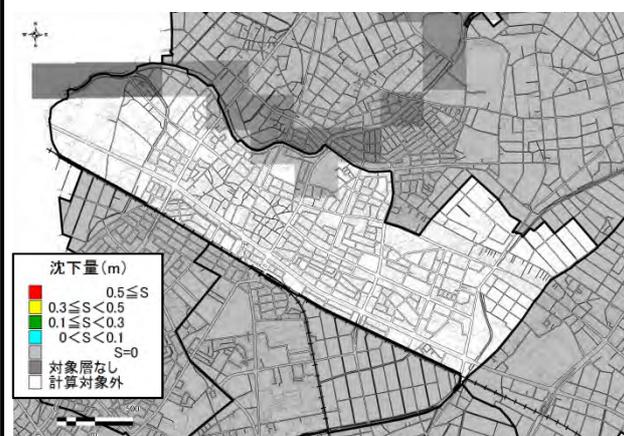
① 想定される地震動の強さ (250m メッシュ)



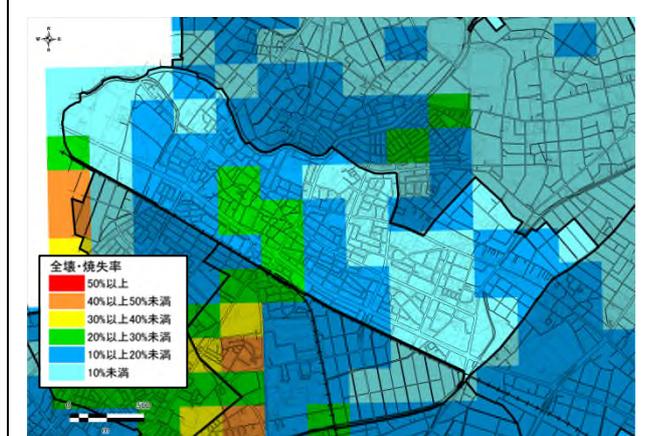
② 液状化の危険性 (250m メッシュ)



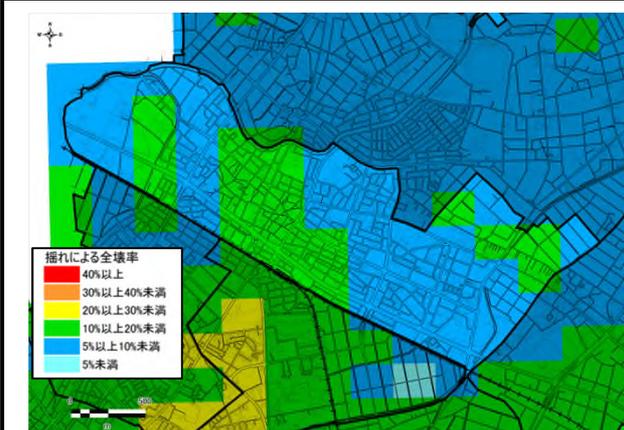
③ 地盤沈下量 (250m メッシュ)



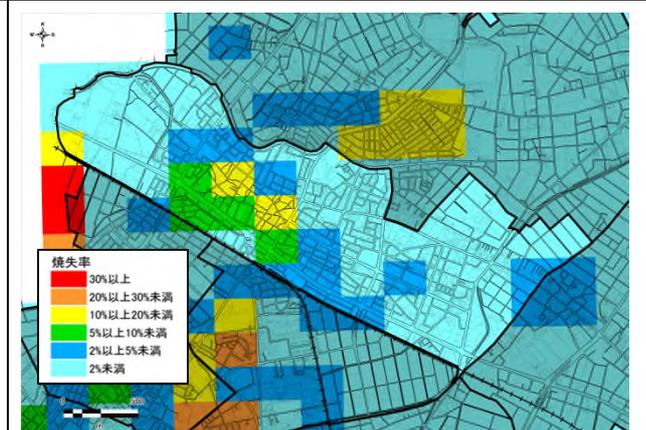
④ 全壊焼失率 (250m メッシュ)



⑤ 揺れ全壊率 (250m メッシュ)



⑥ 焼失率 (250m メッシュ)



5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

安城北部小学校区は、震度 6 強の揺れが想定されている。震度 6 強は、はわないと動くことができないほどの非常に強い揺れであり、建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。

液状化に関しては、猿渡川沿川の低平地で液状化が発生する可能性があるとして想定している。帰宅困難者は、過去地震最大モデルでの想定と同様に見込まれるため、一時滞在施設の確保を検討する必要がある。

<建物・人的被害の予測>

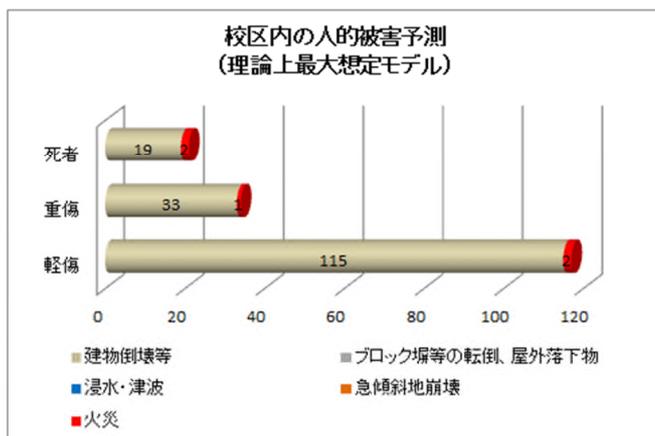
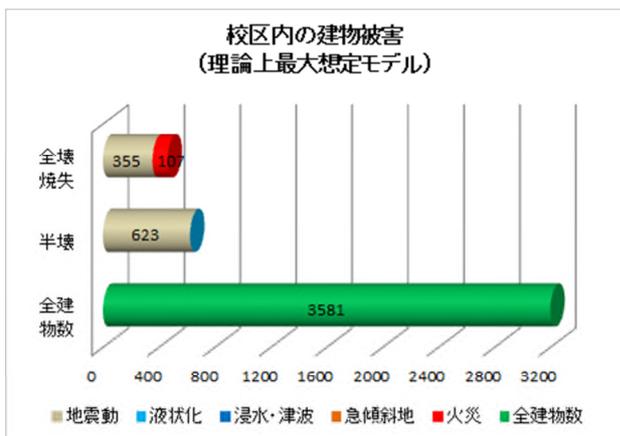
単位:(棟)

建物被害【冬・夕方発災】		
※()内は、校区の建物棟数3,581棟に対する割合		
	全壊・焼失	半壊
地震動	355	623
液状化	*	*
浸水・津波	0	0
急傾斜地	0	0
火災	107	—
建物被害総数	462(12.9%)	623(17.4%)

単位:(人)

人的被害【冬・深夜発災】			
※()内は、校区の深夜人口12,528人に対する割合			
	死者数	重傷者数	軽傷者数
建物倒壊等	19	33	115
(うち屋内転倒物・ 屋内落下物)	(1)	(7)	(32)
ブロック塀等の転倒、 屋外落下物	*	*	*
浸水・津波	0	0	0
急傾斜地崩壊	0	0	0
火災	2	1	2
被害者数合計	21(0.17%)	34(0.27%)	116(0.93%)

* : わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

6. 防災関連施設

防災関連施設	名称
警察署	安城北交番
緊急時ヘリポート可能箇所	東栄公園
消防署	安城消防署北分署
消防団	今村分団詰所、浜屋分団詰所
拠点病院・救急病院・災害医療救護所*	安城北部小学校
自主防災組織数	3
防災倉庫・防災資材庫	北部公民館、安城北部小学校 北部福祉センター
応急給水施設	北部浄水場、北部公民館、安城北部小学校
井戸	3
マンホールトイレ	—
学校	安城北部小学校
保育園	あけぼの保育園
幼稚園	東栄幼稚園
公民館・福祉センター	北部公民館、北部福祉センター

※大規模災害時にのみ開設される救護所

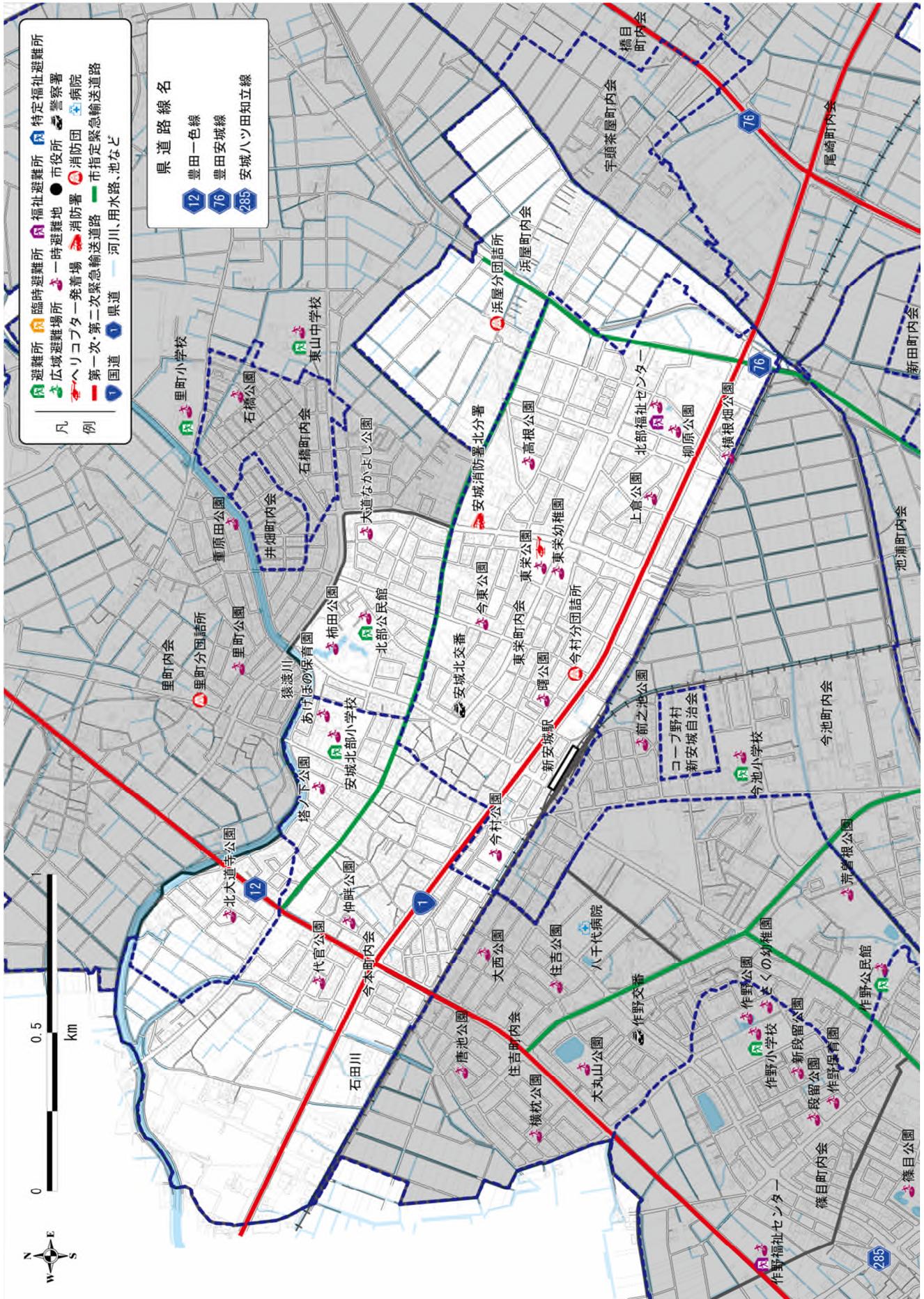
7. 避難所等一覧

避難所	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	避難所	安城北部小学校	98-0825	今本町 8-9-9	270
		北部公民館	98-3751	里町 4-12-4	650
福祉避難所等	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	福祉	北部福祉センター	97-5000	東栄町 6-9	80
避難場所等	区分	名称	所在地	面積[m ²]	
	一時	柿田公園	里町 4-4	36,000	
		東栄公園	東栄町 4-20-5	11,000	
		今村公園	東栄町 1-11	6,200	
		曙公園	東栄町 3-11-5	2,500	
		代官公園	今本町 4-9-15	2,700	
		仲畔公園	今本町 4-3-14	1,500	
		北大道寺公園	里町大道寺 4	2,000	
		塔ノ下公園	今本町 8-2-8	6,200	
		大道なかよし公園	里町 4-25-13	3,100	
		高根公園	東栄町 5-27-2	5,000	
		上倉公園	東栄町 5-15	2,500	
		横根畑公園	東栄町 6-4	1,000	
		今東公園	東栄町 4-6-4	3,000	
		安城北部小学校	今本町 8-9-9	8,300	
		北部公民館	里町 4-12-4	2,500	
		北部福祉センター	東栄町 6-9	1,200	
		あけぼの保育園	今本町 8-9-8	1,700	
		東栄幼稚園	東栄町 3-809-9	1,600	
		柳原公園	東栄町 6-9	5,900	

8. 防災上の課題

- 昭和 57 年以降に建てられた建物の多い地区ではあるが、被害想定では、全壊・焼失、半壊となる建物の割合は、過去地震最大モデルで約 8%、理論上最大想定モデルで約 30%となっている。また、人的被害においても、建物倒壊等による死者数、重傷者数が、過去地震最大モデルで 7 人、理論上最大想定モデルで 52 人となっている。建物被害や人的被害を減少させるためには、昭和 56 年以前に建築された建物の耐震診断や耐震改修により建物の耐震化を進める必要がある。
- 火災による建物被害では理論上最大想定モデルで全壊・焼失棟数が 107 棟となる想定が出ている。火災による建物被害を減らすためには、各家庭での消火器の準備等により火災を拡大させない対策が必要である。
- 名鉄新城駅周辺では、帰宅困難者が最大約 3,800 人程度発生する可能性がある。一時的に滞在できる施設を確保するとともに、地震発生後しばらくの間は、安全が確保されるのであれば、職場や学校に留まるよう啓発することも重要である。

9. 防災関連施設分布図



※最新の地形図とは異なる場合があります。

**平成28年8月配布
安城市危機管理課**